

## 鳥取県西部地震(2000.10.6)に伴う地表の変位

＜吉岡 敏和・水野 清秀・井村 隆介・伏島祐一郎・小松原 琢＞

2000年10月6日に発生した鳥取県西部地震に伴って、震央付近において断層変位の結果と考えられる路面の亀裂・変形が数カ所で確認された。ほとんどの変形は圧縮または開口亀裂の形態であるが、これは道路と断層が非

常に低角度で交差しているためと考えられ、断層に沿う変位量としては20-40cm程度の左横ずれを見積もることが可能である。

(関連：本文7ページ)



1. 国道180号線の歩道に現れたアスファルト路面の短縮変形。北西-南東方向に22cm短縮している(鳥取県西伯町笹畑南西)。



2. 歩道の縁石に見られる短縮変形。縁石の短縮量は35cmと計測された。スケールは1m(1.と同地点)。



3. 国道と交差する旧道に現れた路面の亀裂、亀裂は3本認められ、両側の亀裂に扶まれたブロックが反時計回りに回転している。スケールは5mだが、1m程度植生に隠れている(鳥取県西伯町笹畑)。



4. 鎌倉山北北東の鎌倉山グリーンラインで見られた路面の変形、変形は、道路に直交する方向の左ステップの短縮変形と、道路に平行な方向の開口亀裂の組み合わせで構成され、道路に時計回りに斜交する断層の左横ずれ変位によるものと推定される。スケールは1.3m。